

令和5年度

鶴ヶ島市各種団体シート取りまとめ
及び団体ヒアリング結果報告書

令和6年1月

鶴ヶ島市 総合政策部 政策推進課

〔目次〕

1 まちづくり団体シート 実施概要	1
(1) 調査の概要.....	1
①調査の目的.....	1
②調査の期間.....	1
③調査の方法.....	1
④調査対象及び回収.....	1
(2) シート提出団体一覧.....	2
2 実施結果	3
(1) 結果のまとめ.....	3
①団体としての、今後の抱負や計画について.....	3
②推進・参加・協力（他団体との連携等も含めて）が可能な“まちづくり”活動について.....	3
③鶴ヶ島市の“まちづくり”へのご意見や要望等.....	3
④今後の“まちづくり”全般についてのご意見・ご提案等.....	3
(2) シート項目別 回答一覧.....	4
①団体としての、今後の抱負や計画について.....	4
②推進・参加・協力（他団体との連携等も含めて）が可能な“まちづくり”活動について.....	8
③鶴ヶ島市の“まちづくり”へのご意見や要望等.....	12
④今後の“まちづくり”全般についてのご意見・ご提案等.....	16
3 各種団体ヒアリング 実施概要	20
(1) ヒアリング調査の概要.....	20
①ヒアリング調査の目的.....	20
②ヒアリング調査日.....	20
③参加団体数.....	20
④ヒアリング調査の方法.....	20
(2) ヒアリング参加団体.....	21
① 第1グループ.....	21
② 第2グループ.....	21
③ 第3グループ.....	21
④ 第4グループ.....	22
⑤ 第5グループ.....	22
(3) ヒアリング参加団体意見（発言要旨）.....	23
① 第1グループ.....	23
② 第2グループ.....	25
③ 第3グループ.....	27
④ 第4グループ.....	30
⑤ 第5グループ.....	33
資料 まちづくり団体シート	36

1 まちづくり団体シート 実施概要

(1) 調査の概要

① 調査の目的

第6次鶴ヶ島市総合計画後期基本計画（令和7年度～11年度）の策定に当たり、様々な分野で活動している団体・組織の皆さんの意向を幅広く把握し、計画策定の基礎資料として活用するため、「まちづくり団体シート」による調査を実施しました。

②調査の期間

令和5年9月6日（水）～9月22日（金）

③調査の方法

まちづくり団体シートを郵送または電子メールによる発送、電子メールまたはFAXによる返送

④調査対象及び回収

- ・調査対象数 56団体
- ・回収（提出）数 31団体
- ・回収（提出）率 55.4%

(2) シート提出団体一覧

団体名
四季を味わう会
チームとらいあんぐるプラス
鶴ヶ島市コミュニティ協議会
鶴ヶ島市国際交流協会
特定非営利活動法人 鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会
サザン地域支え合い協議会
杉下地域支え合い協議会
つるがしま中央地域支え合い協議会
北地域支え合い協議会
すねおり地域支え合い協議会
エコ鶴市民の会
鶴ヶ島の自然を守る会
大谷川源流の会
つるがしま緑のカーテン市民実行委員会（愛称：みどりかぜ）
鶴ヶ島市商工会
異業種交流会「スクラム21」
富士見工業団地工業会
鶴ヶ島圏央会
高倉ふるさとづくりの会
鶴ヶ島市民生委員・児童委員連合協議会
社会福祉法人 鶴ヶ島市社会福祉協議会
鶴ヶ島視覚障がい者の会アイネット
鶴ヶ島市聴力障害者会
鶴ヶ島音訳ボランティアサークル「せせらぎ」
鶴ヶ島市障害者支援ネットワーク協議会
特定非営利活動法人こっこの会
鶴ヶ島市ラジオ体操連絡会
鶴ヶ島市シルバー人材センター
鶴ヶ島市老人クラブ連合会
鶴ヶ島市PTA連合会
特定非営利活動法人つるがしま里山サポートクラブ

2 実施結果

(1) 結果のまとめ

①団体としての、今後の抱負や計画について

回答いただいた 31 団体からは活発な活動を展開すべく様々な取組を行っていることがうかがえます。

一方、会員（担い手）の高齢化や減少を課題とする団体が多く見られます。

そのような課題を抱えながらも、多くの団体で、活動の継続と役割の強化を目指していくとしており、今後の抱負（取組）として、行政や各種団体、企業等との積極的な連携、市民の関心を高めるための情報発信の強化、参加を促す仕組みづくりといった意見が挙がっています。

②推進・参加・協力（他団体との連携等も含めて）が可能な“まちづくり”活動について

現状としては、市主催の各種イベント等への協力・参加の実績があること、団体本来の活動をベースとしながら自治会等の地域組織との連携によるまちづくり活動の実績があること、会員個人で様々なまちづくり活動に参加している人も多いといった意見が挙がっています。

今後に向けては、企業の社会貢献の受け皿としての活動のほか、会員以外の市民や他団体との連携により、活動の幅を広げることが可能といった意見が挙がっています。

③鶴ヶ島市の“まちづくり”へのご意見や要望等

市のまちづくりの観点から求められる取組として、行政としっかり連携していくこと、各種団体と積極的に連携の機会を探っていくこと、団体間のネットワークづくりや情報共有の機会を増やすこと、また、鶴ヶ島市の特性である豊かな自然環境や人的資源、災害リスクが少なく、利便性の高い立地を活かしていくことが重要であるといった意見が挙がっています。

④今後の“まちづくり”全般についてのご意見・ご提案等

今後に向けては、市民がまちづくりに参加しやすい仕組みづくり、そのための人づくり、各団体同士や団体と地域・市民・企業等が連携を進めやすい環境づくりのほか、活動のステップアップのための支援の充実などを望む意見が挙がっています。

また、多様性のある社会に向けた取組、定住人口の維持・確保に向けた若者等の移住者を呼び込む取組、そのための魅力づくりが重要といった意見が挙がっています。

(2) シート項目別 回答一覧

①団体としての、今後の抱負や計画について

団体名	回答内容
四季を味わう会	<p>コロナ禍もあり、高齢化に伴い出かけることも少なくなって交流の機会が少なくなる懸念から、季節の食事を味わいながら学習を続けたい。女性センターのイベントには積極的に参加する予定。</p>
チームとらいあぐる	<p>男女共同参画普及啓発に寄与する事、及び、女性センター利用団体の増加に寄与する事。</p>
鶴ヶ島市コミュニティ協議会	<p>自治会は、地域コミュニティの最も基礎的な団体で、地域の活性化、地域福祉の向上には欠かせない団体である。しかし、自治会は親睦団体であり、加入も任意で強制力はなく、地域での人間関係の希薄さからか、近年自治会への新規加入促進が大変難しくなっている。</p> <p>自治会へ関心を向けてもらうため、また、自治会が何をしているのか知ってもらう必要があり、紙媒体の情報提供からSNSの活用などによる情報提供の充実が求められている。</p> <p>さらに、会費徴収の負担軽減のため、電子決済や口座振替などのシステム化が可能か情報収集をする。</p> <p>まず地域の活動を知ってもらうことが大切と考えるため、メディアや市広報広聴担当による地域のまつりの取材依頼、夏祭り特集号を市広報において組んでもらう等検討する。</p> <p>○活動の優先順位</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自治会行事（会費集金、まつり開催、会議参加：総会・役員会（班長会）等 2 市への協力事業（春・秋の一斉清掃）、各種募金 3 支え合い等の他の地域団体主催行事への協力 4 その他（防災活動への参加） <p>自治会によっては自主防災組織を結成し、自治会と一体で活動しているが、高齢化で隊員数も減少し、活動も停滞気味のところが多いようだ。防災への関心は他地域に比べ低いものの、多くの方は不安感を抱いており、防災を切り口にしての自治会活性化を図ることができるのでは考えている。</p>
鶴ヶ島市国際交流協会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な国や地域から市内に移り住む外国籍市民は毎年増えており、地域社会に溶け込む手助けとなる活動を続けたい。 ・ 会員数を増やす努力をし、交流の場となる事業を行うことにより地域住民と外国籍市民のコミュニケーションを図っていく。 ・ 11月12日の鶴ヶ島産業まつりでPR活動を計画している。 ・ 12月3日に日本文化紹介事業を行う予定。
特定非営利活動法人 鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当協議会での、防災に対する取り組みでのアップデート：更新の必要性を感じる ・ 防災訓練への市制からの更なるバップアップ体制の充実（組織変更の意図は？：危機管理課に期待も。防災についてのプロの必要性）

団体名	回答内容
サザン地域支え合い協議会	地域内 12 自治会と協力するとともに、地域の各種団体と連携し、事業を進めていきたい。
杉下地域支え合い協議会	<p>人が基本となるボランティア団体ですので、人材の確保と健康が重要です。そのための事業を計画して実行していく事が大切と考えます。</p> <p>大きなイベントも大切ですが小さな小回りの利く参加型のイベント（フェス）等を実行していく。</p>
つるがしま中央地域支え合い協議会	協議会の原点「居場所・仲間・健康づくり」を基本に孤立のない、させない地域共生社会の実現に向けた活動を進めます。
北地域支え合い協議会	活動量は十分であり、今後は内容に変化を持たせ、地域会員が関心を持ち続けられる様にしたい。
すねおり地域支え合い協議会	地域社会は多くの老若男女で成り立っている。安全・安心な地域社会を形成するためには、防災・防犯活動、子供の安全・育成活動の取り組みが不可欠と考えております。そのためには、幅広い人の意見やアイデアが反映される仕組み作りを考えたい。
エコ鶴市民の会	<p>着用しなくなった服を生かした小物づくりを通して明るい日常生活を演出していきたい。</p> <p>生ごみは燃えるゴミのおよそ半分といわれている。調理屑、除草した草、手入れした樹木の枝も燃えるごみとしてステーションに出されている。有効活用して、燃えるごみの減量に努めたい。そんな思いで 31 年間活動してきたが、この分野は市民だけではムリな面があり、行政の積極的な関与をお願いしたい。</p>
鶴ヶ島の自然を守る会	鶴ヶ島市内に質の良い自然を少しでも多く残すこと、創出すること。市民、特に子供たちが身近に触れることができるような自然を残すこと。
大谷川源流の会	現在進行中だが、南小学校の子ども達にドングリから幼木を育ててもらい公園に植樹して、一緒に森作りをしてもらっている。今の「太田ヶ谷の森」は樹木が高齢化してナラ枯れ病も多発しているため、長期的な視点から子供達に愛着を持って関わってもらうため、活動に協力してもらっている。春のタケノコ掘り、初夏の夜の昆虫観察会には、近くの子供達が大勢参加してくれているので、さらに自然環境を楽しめる企画も実施していきたい。
つるがしま緑のカーテン市民実行委員会(愛称:みどりかぜ)	本年 3 月 20 日、市は「ゼロカーボンシティ宣言」を表明されました。これは国の動きに合わせた画期的な政策の一つとして高く評価しております。地球環境が「気候危機」を迎えた現在、市民一人一人がこの難局を理解するよう、省エネ・節電に役立つ「緑のカーテン」を通じ展開いたします。幸い、市が市民の出来るゼロカーボンテーマとして緑のカーテンを採用され、脱プラスチック問題と合わせ「ヘチマ・プロジェクト」事業を当団体の年間計画に組み込み推進中です。
鶴ヶ島市商工会	本会は、会員事業者が経営環境の変化に的確に対応できるよう持続的な伴走型支援を実施し、事業継続支援・事業承継支援・DX 推進による事業改革を重点的に支援していく。

団体名	回答内容
異業種交流会「スクラム 21」	(株) 関水金属が新工場を建設しテーマパークをオープンするのに合わせ、N ゲージの鉄道模型を市内の飲食店や小売店等の事業所に展示し、地域を盛り上げていきたい。また駅弁スタンプラリーイベント(仮称)等を実施したいと考えている。
富士見工業団地工業会	コロナで低下した活動の再開および事業の推進。
鶴ヶ島南西部工業団地工業会 鶴ヶ島圏央会	常に「思いやりの心と感謝の気持ちを忘れない」を念頭に社会貢献や自然保護など、街づくりや明るい未来を築く事。
高倉ふるさとづくりの会	未耕作地等の活用。菜の花、ヒマワリ、コスモス等。
鶴ヶ島市民生委員・児童委員連合協議会	身近な相談相手として、常に地域住民の立場に立って相談に応じ、必要な支援を行い、社会福祉の増進に努めます。
社会福祉法人 鶴ヶ島市社会福祉協議会	行政と共に、第3次地域福祉計画(活動計画)の重点施策である「包括的な支援体制づくり」を実現させたいと考えている。特に重層的支援体制を組む時に、地域づくり、参加支援については、社協のこれまでの実績やネットワークをうまく活用することにより、「制度・分野の枠や『支える側』と『支えられる側』という従来の関係を超えて、住み慣れた地域において、人と人、人と社会がつながり、すべての住民が尊厳のある本人らしい生活を継続することができるよう社会全体で話し合いながら、ともに地域を創っていくこと」ができると考えている。また、生活サポートセンターにおける相談機能強化も地域に不可欠である。
鶴ヶ島視覚障がい者の会アイネット	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉課、社会福祉協議会などの支援をいただき、市内在住でもアイネットの存在を知らない視覚障害者とのコンタクトをとれるようにしていきたいと思います。 ・大学などの福祉講座の参加を通じて、学生サークルなどとの継続した交流を持てるようにしたいと思います。
鶴ヶ島市聴力障害者会	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴ヶ島市手話言語条例に関する活躍していくこと。 ・手話言語の国際デー(国連より)に関わり仮称「鶴ヶ島市手話言語デー」と定め、市内のイベントを開催すること。
鶴ヶ島音訳ボランティアサークル「せせらぎ」	できる限り活動を継続して、少しでも社会の役にたっていきたい。
鶴ヶ島市障害者支援ネットワーク協議会	小中学校をはじめ、多様性を認めることの大切さを多くの人達に伝えていきたいと考えています。
特定非営利活動法人こっこの会専門指導部	多様な共生社会。親支援、子ども支援の事業活動を継続していく。
鶴ヶ島市ラジオ体操連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の維持増進の場として、令和7年3月末までにラジオ体操実施団体を30団体まで増加させる。 ・ラジオ体操会場を地域のコミュニケーションや仲間づくりの場(見守り)にしていきたい。
鶴ヶ島市シルバー人材センター	当シルバーは社会参加意欲のある健康な高齢者に対して、地域社会と連携しながら、その希望に応じた就業並びに社会奉仕等の活動機会を確保するとともに、生きがいの充実及び福祉の増進を図り、高齢者の知識、経験及び能力等を活かした活力ある地域社会づくりに寄与したいと考えている。(定款第3条(目的)から)

団体名	回答内容
鶴ヶ島市老人クラブ連合会	<p>老人クラブの活動を通して個人の生きがいの発見。フレイルの予防、社会奉仕等に貢献していきたい。</p>
鶴ヶ島市PTA連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の PTA 団体と連携を取り、市内の児童、生徒の教育環境をより良いものにしていきたい。 ・子供を見守る活動の継続 ・他団体（自治会・学校応援団・連絡協議会・商工会などとの連携） ・家庭環境に左右されない学びの場の確保。 ・各校の PTA 団体との積極的交流と情報交換。
特定非営利活動法人 つるがしま里山サポートクラブ	<p>市民の森は、市民が身近に利用出来る、貴重な自然環境と思います。活動を通じて東京や周辺市町村の方々は、このような自然の森があるのはうらやましいとの感想を聞いています。我が町の魅力の1つです。自然の森の持つ子ども達への効果として、感性、創造力、イメージ、問題解決能力を高めると言われる市民の森(生態系が豊かな森)を継承していくことが、人材育成にも大きな力を持つと思います。30年後に、優秀な人材が活躍することを夢見ています。</p> <p>このため、人工的な公園より、森の持つ生態系を体験出来る市民の森を残していきたいと思っています。現在は、地主さんの好意による契約により、維持されています、相続時に解消される恐れが大きい。このための対策を地域の行政、企業、市民の協力によって実現していきたいと思っています。</p>

②推進・参加・協力（他団体との連携等も含めて）が可能な“まちづくり”活動について

団体名	回答内容
四季を味わう会	女性センターふれあいウィークでは、毎年図書室において「まちライブラリー」を開催している。女性センター図書室にある本を一冊読んで紹介し合う会である。女性センターには、生活に役立つ本や参考になる本が充実しており、市民にもっと知ってほしいと思っている。
チームとらいあんぐる	チームとらいあんぐるは 男女共同参画社会推進の為の活動が基本であり、女性センター以外でも男女共同参画普及啓発の為の取り組みがあれば参加協力は可能。
鶴ヶ島市コミュニティ協議会	各種の自治会活動を通じ、道路情報や空き家などの防災・防犯情報の提供、ゴミ集積所の維持管理等を通じた良好な住環境の維持等の推進。
鶴ヶ島市国際交流協会	・日程や内容など可能なものは参加協力します。
特定非営利活動法人 鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会	・当面「まちづくり整備計画（案）」の概要説明 2023.10.5 期待しています。
サザン地域支え合い協議会	－
杉下地域支え合い協議会	現在もつるがしま里山サポートクラブへの協力により子ども達への遊びの提供をおこなっているが、これからも協力をつづけて子ども達の教育的な体験をしていきたい。また安心・安全なまちを目指して自治会とも協力をして防犯パトロール（青パトや夜のパトロール等）を可能な範囲で考えていきたい。
つるがしま中央地域支え合い協議会	多くの団体との連携は必要なことであり、市、関係機関をはじめ自治会や地域活動団体等の組織を図り、まちづくりに向けた対策を考える機会とすることが必要である。
北地域支え合い協議会	安心安全な地域づくりを目指しているので防災訓練を行っているが、地域の関心は薄いし個人情報に壁になっている事も感じる。
すねおり地域支え合い協議会	地域の助け合いは、社協、包括支援センターと連携を図り進めています。また、自治会連合会連合会を始めに今後は地域内の他団体との連携を進めたい。
エコ鶴市民の会	環境問題は多岐にわたり、行政・企業・市民のパートナーシップで推進して効果が上がると思う。目にやさしく暑さを防ぎ、CO ₂ を吸収してくれる樹木を大切にとっても、わずかな市民の意見のみで切られてしまう。どのパートの生活者も一致してよい環境とは何かの意見を合意して、役所のどのセクションも一致して鶴ヶ島の環境をよくする動きをしなければ、一部の市民が良い活動をしてはならない。
鶴ヶ島の自然を守る会	地域に根差した動植物による健全な生態系を維持できるよう、生物調査を行い、その結果に基づいて、市のまちづくり計画作成に協力すること。 市民を対象にした自然観察会を行い、市民に鶴ヶ島の自然について知ってもらうこと。

団体名	回答内容
大谷川源流の会	里山の自然環境を整備することで、四季の自然に触れ合える散策路ができ、市民の健康に資する。また市民がそうして作業に関わることで、目的意識を持った街づくりに関わることができる。企業の社会貢献活動の受け皿、大学の自然体験活動の場所にもなっている。
つるがしま緑のカーテン市民実行委員会(愛称:みどりかぜ)	緑のカーテンは、環境にやさしい活動として、市、学校、各公共施設等々で、実施されていますが、市民の方により参加していただくように、ヘチマ・プロジェクトを核に推進し、ゼロカーボン時代のまちづくりに貢献したい。
鶴ヶ島市商工会	「第6次鶴ヶ島市総合計画」では、まちづくりの方向性として「魅力とにぎわいのあるまち」を掲げている。また、これを実現するために、本会でも①中小企業・起業者などの育成支援、②地域資源の活用支援、③市内の事業者との連携、④鶴ヶ島というベッドタウンとしてのブランドの確立を図ること、などによる「活力とにぎわいのまち」の創出にこれからも取り組んでまいりたい。
異業種交流会「スクラム21」	鶴ヶ島のイメージキャラクター「つるゴン」等を活用したシティプロモーションの推進。 現在つるゴンのぬりえシートを作製し、市内の飲食店や幼稚園、保育園、高齢者福祉施設等に配布して、市民に鶴ヶ島への愛着を持てるような取り組みを行いたいと考えている。
富士見工業団地工業会	富士見工業団地内のみならず、若葉地区全体の「安心」「安全」を目指し、防犯活動および交通安全運動への参加協力を推進する。
鶴ヶ島南西部工業団地工業会 鶴ヶ島圏央会	可能なかぎり参加・協力しようと思っています。
高倉ふるさとづくりの会	高倉の若い人達も年々少なく、屋敷林等の整備もあまり出来ない状態です。皆で屋敷林等もきれいにし、活用できればと思います。
鶴ヶ島市民生委員・児童委員連合協議会	各委員が日頃から様々な“まちづくり”活動への参加・協力・推進をしています。“まちづくり”活動の案内等を頂けましたら、各地区協議会の定例会で委員へ周知します。
社会福祉法人 鶴ヶ島市社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的孤立の解消（ここつなネット、ふれあい・いきいきサロン） ・市民活動団体 50 団体、ふれあい・いきいきサロン 80 団体、障害者支援ネットワーク協議会、支え合い協議会等と協力して、地域別懇談会の開催を行っている。様々な団体をつないで、地域の課題を共通認識する場づくりができる。
鶴ヶ島視覚障がい者の会アイネット	<ul style="list-style-type: none"> ・S ネットを通じて、いろいろな協力者及び当事者団体等との連携を図っていきいたい。 ・社協で行っている、若い世代も含めた「ここつな」のような活動を行えたら市民同士のつながりもできると思います。 ・単独での外出が困難な視覚障害者が企画し、一般市民を巻き込んで、一緒に体験型の旅行などを行なうことでお互いの理解促進ができるのではないかと思います。

団体名	回答内容
鶴ヶ島市聴力障害者会	障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法では、手話や字幕、点字の提供などで、情報分野のバリアフリー化を図るため、鶴ヶ島市の推進計画を取り組んでほしい。
鶴ヶ島音訳ボランティアサークル「せせらぎ」	-
鶴ヶ島市障害者支援ネットワーク協議会	鶴ヶ島市障がい者ネットワーク協議会・福祉教育チームとして、小中学校等に講座をお届けします。「ギフトド」としてもどこへでも理解啓発講座を（無料で）お届けに行きます。
特定非営利活動法人こっこの会	発達障がい児（者）についての啓発活動。保護者からの子どもについての相談窓口。必要に応じて専門検査を受ける事への促しや子ども支援課・障害者福祉課・社協との連携をする。
鶴ヶ島市ラジオ体操連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・市のイベントなどを参加者へ周知すること。 ・要請があれば、運動会前に学校へ出向き指導することも可能。 ・健康維持増進や社会参加の場所として協力可能。
鶴ヶ島市シルバー人材センター	シルバー人材センターでの就労等によって会員（市民）の「フレイル予防（特に社会参加によるソーシャルフレイル予防）」につながり、ひいては会員（市民）の「健康寿命」を伸ばすことも可能となる。そのことは会員（市民）の個人的幸福のみならず医療費削減等の効果も期待しうる。
鶴ヶ島市老人クラブ連合会	老人クラブ会員の増強活動により、地域交流の場を広げていきたい。
鶴ヶ島市PTA連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 活動と地域の自治会との連携。地域活動の入り口としてのPTA 活動。 ・中学生年代の課外活動の問題。いわゆる部活動ですが、今後教員の労働環境改善の為に部活動の削減や形態の変更が予想されます。その時の地域団体との連携を期待します。 ・様々な年代との連携強化（小中学生と高齢者、高校生、大学生、地域企業など）
特定非営利活動法人 つるがしま里山サポートクラブ	<p>市民の森は、市民の共有の宝と思っています。又、市民活動の場として、多くの団体、市、社協と連携を取りながら活動を展開しています。</p> <p>特に、地域毎にある市民団体が会員の確保に努力していますが、全市的な活動や情報交換をする場所がなくなってしまったため、市民センター地区ごとの小グループの団体が多くなっています。特に、ボランティア活動の動機は、理念に同意した人が集まり、活動を開始する機会が多く見られます。一定の会員が集まらないと、活動も活発化しません。そういう意味では、私たちの活動の場が、五味ヶ谷、藤金、高倉、太田ヶ谷と全市に拡がるネットワークが出来ています。現在、全市を対象として活動をしている団体は、18年前の市民活動推進センターの活動から、発生した団体を中心です。このため、共通的に高齢化が問題となっています。</p>

団体名	回答内容
	<p>つるがしま里山サポートクラブは、市民活動のプラットフォームとして、多様な市民活動団体の連携のきっかけになればと、連携イベントを心がけています。里山の保全活動に関しては、周辺市町村への展開を奨めており、「坂戸ー二三の会」、毛呂山町の「里山サポートもろやま」の設立を支援し、連携活動を継続しています。</p>

③鶴ヶ島市の“まちづくり”へのご意見や要望等

団体名	回答内容
四季を味わう会	<p>年に2回ほど女性センターでも利用者懇談会が開かれている。ふれあいウィークのサポーター団体を選出するなど参加団体も充実してきていると思うが、市民センターとは違う目的を持ったセンターでもあるので、男女共同参画推進に向けての積極的な懇談会になるよう望む。時に、利用説明会のようで残念に思う。女性センターでは、男性の職員がいなくなってから久しい。女性センターといえども、昨今は男性の生き方の問題も出てきている。また、性に係る様々な人々の問題に接するにあたり、男性の職員も必要であると思う。職員は元より臨時職員においても、男女共同参画に関する国や県の研修を受けるなど、研さんに努めてほしい。</p>
チームとらいあんぐる	<p>男女共同参画社会の推進に、さらに積極的な取り組みを期待したい。</p>
鶴ヶ島市コミュニティ協議会	<p>高齢化による役員のなり手不足に加え、自治会間の格差も生じており、既存行事への協力にも負担感が増している。そのため地域行事はできるだけ見直し、シンプルにして欲しい。</p> <p>また、会議の場において必ず話題になるのが、会員の減少対策、役員の選出問題、そして、ごみ集積所管理の問題。これは自治会長に共通する悩みであり、課題。</p> <p>やむなく抽選で会長になった方でも、自治会活動の低迷を何とか防ぎたいとの思いは共通している。</p> <p>自治会の負担を軽減することも活性化のポイントであるので、市が自治会へ委嘱している委員（あて職）等の見直しをして欲しい。</p> <p>時間を取っていただき、ごみ集積所の管理等について話し合う機会を持ってほしい。</p>
鶴ヶ島市国際交流協会	<p>・公共施設や案内板など出来るだけひらがな表記もしくはフリガナをつけるのが望ましい。注意書きや様々な書類も「やさしい日本語」で書かれていると誰にでも伝わり易いので是非早急をお願いしたいと思っております。</p> <p>例：土足厳禁 ➡ くつをぬいでください</p>
特定非営利活動法人 鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会	<p>・市としての人材バンクは必要ないのでしょうか(個人の見解)(地域デビューきっかけ広場・各種イベント・研修会の活用等) 民生委員・児童委員、保護司、学校応援団、学校部活動補助指導員、etc</p>
サザン地域支え合い協議会	<p>－</p>
杉下地域支え合い協議会	<p>当協議会は支え合い協議会ですので、支え合い・助け合いが使命です。そのためには高齢者への見守り、互助・共助、子ども達には自然を感じられる援助と考えます。そのためには高齢者の見守りができるようなシステム作り(ネットワーク、アプリ、機材)、子ども達には自然を体験できる場の提供が必要と思われれます。</p>

団体名	回答内容
つるがしま中央地域支え合い協議会	今般、地域住民が抱える課題が複雑化、複合化、多様化しています。住民一人ひとりの暮らしを大切に、役割や生きがいを持つ鶴ヶ島を築ける方策が大切なことです。
北地域支え合い協議会	補助金を頂いているので活動資金の心配がないのは有難い。ただし設問①でも述べましたが、世代交代が出来ないと協議会組織を維持出来なくなると危惧される。
すねおり地域支え合い協議会	申し訳ございません。「まちづくり」への取り組み認識が薄く(勉強不足)意見はありません。
エコ鶴市民の会	「地球にやさしいリサイクル都市宣言」に準じて生まれた私たちの活動、2023年は「ゼロカーボンシティ宣言」をした市と歩調を合わせて、このグローバルな課題に取り組んでいきたい。市のどのセクションとどんなパートナーシップを組めば有意義な結果を出せるか、オール鶴ヶ島で議論していただきたい。
鶴ヶ島の自然を守る会	高倉地区、太田ヶ谷地区、三ツ木地区などを拠点とし、大谷川、飯盛川などを繋ぎ、さらには都市公園や街路樹なども活用した、生き物が生息し移動できる生態系ネットワークを形成すること。また市民が憩い、子供たちが虫捕りや魚捕りをできるような場所を確保していただくこと。
大谷川源流の会	鶴ヶ島は民地の樹林地が広く残り、市の原風景を形成していたが、薪炭や建築材の供給源としての目的が失われて毎年減少を続けている。とくに市の西部地区には湧水と水源を取り巻くように樹林地が存在している。こうした樹林地と水路のネットワーク環境は今後も可能な限り保全していただきたいと思います。
つるがしま緑のカーテン市民実行委員会(愛称:みどりかぜ)	市の環境基本計画に緑のカーテンが事業として組み込まれています。市民のできるまちづくりテーマの一つとして分かりやすいと考えます。市民の方に環境基本計画をご覧いただきたいと思います。
鶴ヶ島市商工会	本会でも今後の鶴ヶ島市の“まちづくり”に関する施策に積極的に協力して行きます。
異業種交流会「スクラム21」	市と意見交換をしながら鶴ヶ島市のまちづくりに関する施策に積極的に携わっていききたい。
富士見工業団地工業会	-
鶴ヶ島南西部工業団地工業会 鶴ヶ島圏央会	建設業が身近に感じられ“ものづくり”の楽しさが分かるような場を作っていただきたいです。
高倉ふるさとづくりの会	当市へのお客様が遊べる所、食べられる所、一日ゆっくり出来る場所が必要。
鶴ヶ島市民生委員・児童委員連合協議会	訪問活動のなかで、家に引きこもっている高齢者が多いと感じます。外に出るきっかけをつくるまちづくりや事業が必要でないかと感じています。

団体名	回答内容
社会福祉法人 鶴ヶ島市社会福祉協議会	<p>鶴ヶ島市は、元来地域住民がとても意識が高く活発に、まちづくりに関わってくれていたと感じている。その部分を活かしながら、制度や仕組みをうまく作っていくことが重要である。ただし、住民の意識は自然発生的にできるものではないので、調整機能や新たな地域課題を発信することを協議を重ねながら、実践的に動くことができる（コミュニティソーシャルワーク）を更に強めることにより、住民同士の関係の再構築や地域での役割、自己実現へとつながっていくと考える。これらが社協の強みであるので、その機能をより発揮できる組織作りを深めていきたい。行政ともしっかり連携をして、様々な立場の方をつなげ、相乗効果を生むことを意図的に行っていきたい。</p>
鶴ヶ島視覚障がい者の会アイネット	<ul style="list-style-type: none"> ・以前のような福祉まつりを産業祭などとコラボして行えたら、障害者への理解の促進と、一般市民との共生社会の実現の一助になると思います。 ・障害者団体だけの行う催しでは、なかなか一般市民の興味を引き出すのは難しいです。
鶴ヶ島市聴力障害者会	<p>年齢や障害の有無等に関係なく、誰でも必要とする情報に簡単にたどり着け、利用できることをいいます。</p> <p>令和4年5月に「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」が成立・施行されました。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①障害の種類・程度に応じた手段を選択できるようにすること ②日常生活・社会生活の地域に関わらず等しく情報取得等ができるようにすること ③障害者でない人と同じ内容の情報を、同一時点で取得できるようにすること ④高度情報通信ネットワークの利用・情報通信技術の活用を行うこと <p>コロナ禍の中、鶴ヶ島市では手話による情報発信はありませんでした。また、令和5年4月に鶴ヶ島市手話言語条例が制定されましたが、制定されたことも手話による情報発信がありませんでした。現在、鶴ヶ島市専任手話通訳者の内、正規職員は1名です。今後、日々の手話通訳だけでなく、色々な手段での情報発信や手話通訳者を増やすためにも専任手話通訳者の拡充をお願いします。</p>
鶴ヶ島音訳ボランティアサークル「せせらぎ」	<p>※南市民センターの移転と新築について：できるだけバリアフリーの構造としてほしい。明るく楽しくなるような建物であってほしい。利用する高齢者、障がい者、子ども、男性女性全ての人が安全に心地良く利用できる場となるよう願っています。</p>
鶴ヶ島市障害者支援ネットワーク協議会	<p>マイノリティ・マジョリティに関係なく、誰もが過ごしやすい「まち」を目指してほしいです。それにはまず、教育現場の意識改革を。集団になじめない子どもの受け皿が必要かと思います。</p>
特定非営利活動法人こっこの会	<p>発達障がい専門の相談機関が必要。(地域包括的な子育て支援センターのような形の中の一部でもよい。)</p>

団体名	回答内容
鶴ヶ島市ラジオ体操連絡会	<p>・公園整備の際に、ラジオ体操を行いやすいよう環境整備を行っていただきたい。 (掲示板等でラジオ体操会場であることを案内、夏場の日よけなどがあると良い)</p>
鶴ヶ島市シルバー人材センター	<p>特になし。</p>
鶴ヶ島市老人クラブ連合会	<p>老人クラブの活動範囲は「歩いて通える」が基本だが、大会や各種行事では交通手段がネックとなって参加できない人も多く、コミュニティバスの便やルートの増加を検討してもらいたい。</p>
特定非営利活動法人 つるがしま里山サポートクラブ	<p>鶴ヶ島市の魅力のPR、利用出来る森が身近にあると言う事は、「緑豊かなまちづくり」の魅力の1つとして、又、大谷川の段丘境の連続した屋敷林は、貴重な生態系の緑地帯として機能しており、残された唯一の生態系の軸となっています。鶴ヶ島の貴重な生態を維持していくためには、これらの緑地帯の保全策など、行政のお力によって、実現出来たらと思っています。又、藤金地区の区画整理地区は、「まんざいろく」という年中枯れない湧き水があったところを埋め立てているところと聞いています。(地誌より)</p> <p>この地区の宅地化には、軟弱地盤などを想定すると大規模な造成が不可欠と思いますが、大谷川の整備計画と合わせて、全国でも多くの取り組み事例がある自然型の河川整備(国交省多自然型川づくり)を検討して頂きたいと思っています。</p> <p>大谷川の改修により、住宅地のそばに「自然型の水と森のあるまち」は鶴ヶ島の都市の魅力の1つとして活用出来ると考えています。</p>

④今後の“まちづくり”全般についてのご意見・ご提案等

団体名	回答内容
四季を味わう会	<p>公民館が市民センターになって、公民館運営審議会がなくなり、市民の意見が市行政にまできちんと届いていないのでは、と懸念される。一番身近である市民センターにおいては、利用団体同士の交流、連携に協力、支援をお願いしたい。人づくりでもある講座を充実させてほしいので学習のための予算立てをしてほしい。まちづくり団体シートは市内で活動している団体、サークルすべてに依頼しているのか。すべてにではないのなら、どういう基準で出しているのか。団体シートやヒアリングで収集した内容をどのように活用し、その効果をどのように発表しているのか。効果があまり期待できないでいる。</p>
チームとらいあぐる	<p>「まちづくり」に「人材」は欠かせない。人を「人材」に育てるのは、学び。かつて公民館活動団体が地域の教育や福祉の分野等で多大な貢献をしていた事は、議会で市も認めていた。現在活動が衰退しているのは、新たな人材を育む学びの基盤になる事業がなされなかった事による。今後に向けて人材育成の為に、女性センター・市民センターでの講座開催が重要であり、それができる予算を是非付けていただきたい。</p>
鶴ヶ島市コミュニティ協議会	<p>春、秋の一斉清掃は、会員以外の方も含め、最も多くの市民が参加する地域行事のため、何か工夫ができればと考えている。自治会によっては飲み物や花の苗の提供など工夫をしているところもあるが、市としても何か考えて頂けると地域の活性化につながるのではと思っている。コミュニティ活動のPRに大いに利用できる行事なので、名称を変更して爽やかなイメージを創出することも工夫の一つになると思う。加えて、一斉清掃日に他団体の行事が被ることがないようにアナウンスをして欲しい。</p> <p>また、募金（社協、赤十字、赤い羽根、歳末助け合い）についても、負担軽減のための策が欲しい。</p>
鶴ヶ島市国際交流協会	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性が求められる時代にふさわしく、誰もが暮らしやすい“まちづくり”を期待します。 ・また近年はあちこちで大きな災害も多く発生しているが外国籍市民は自治会に入っていない、また入っていても日本語が十分ではない為に情報を得にくい事があります。 ・防災面でそのような人を取りこぼすことのない仕組み作りが必要だと思えます。
特定非営利活動法人 鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会	-
サザン地域支え合い協議会	-
杉下地域支え合い協議会	<p>ショーや講演会など大勢が集まれる文化会館や多種目可能なスポーツセンターを是非とも作っていただきたい。そしてフェス（祭り）等を開催して人が集まる街に。その時は交通手段を考え皆が集まれるようにしてほしい。</p>

団体名	回答内容
つるがしま中央地域支え合い協議会	第3次地域福祉計画・地域福祉活動計画にも位置付けられている「地域共生社会」の実現に向けて、包括的な支援体制を構築することが必要である。
北地域支え合い協議会	私の個人的な意見になりますが、鶴ヶ島市の利便性、災害の少ない地域特徴+子ども育成の優位性をもっとアピールして移住者を呼び込むべきと思う。
すねおり地域支え合い協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・年代に関係なく参加できる事業（音楽、まんが、芸能、絵画、歴史）。 ・他の行政と連携してステップアップを目指した支援。 ・若い人の情報やアイデアが組織やシステム。 ・固定席のある会館やスポーツジム（トレーニング施設）。
エコ鶴市民の会	議論が足りないと思う。「まちづくりとはなにか」についてももっと語り合わなければ。それぞれ夢をもってこの街に住んでいると思う。調査をしてはどうか。
鶴ヶ島の自然を守る会	恒久的な緑地の確保。農業の活性化。自然の持つ多面的機能を活用した災害に強いまちづくり。以上、よろしく願いいたします。
大谷川源流の会	鶴ヶ島市はこの度ゼロカーボンシティ宣言をしましたが、温暖化対策は極めて重要な施策になっています。これを生活環境課のみの担当課題とすることなく、各課を横断して全市的に取り組むための施策と推進組織を作っていただくことを切望いたします。
つるがしま緑のカーテン市民実行委員会(愛称:みどりかぜ)	国際的な目標「2050年カーボンニュートラル」に基づき、ゼロカーボンシティ宣言が表明された背景を認識することが重要と考えます。また、気候変動が気候危機となったことを知っていても「他人事と考える人が多い」のも困ります。何とか「自分事に考えて行動する人」を増やしたい。市の示された、緑のカーテン「ヘチマ・プロジェクト」に参加し行動することが、市民のみなさまの役割の一つであることを広くアピールしたいと考えます。
鶴ヶ島市商工会	少子高齢化に対応した、生き生きしたまちづくりには、先行した施策の推進が必要である。
異業種交流会「スクラム21」	当会を含め民間団体を鶴ヶ島市のまちづくりにもっと活用していただきたい。
富士見工業団地工業会	-
鶴ヶ島南西部工業団地工業会 鶴ヶ島圏央会	-
高倉ふるさとづくりの会	-
鶴ヶ島市民生委員・児童委員連合協議会	特にありません。
社会福祉法人 鶴ヶ島市社会福祉協議会	福祉の分野はどうしても、行政だけでなく、専門職も縦割りが深く、連携がとりづらいつと感じることがある。重層的な支援体制を組むことにより、少しずつでもその部分を解消していきたい。
鶴ヶ島視覚障がい者の会アイネット	・鶴ヶ島も市民の高齢化が進んでいると言うが、若い人が移住してくれるような魅力のある施策を考えていただきたい。例えば、レインボー地域との連携事業など。

団体名	回答内容
鶴ヶ島市聴力障害者会	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉と共生まちづくりをつくってほしい。 ・産業・福祉・商業のふれあいフェスティバルを開催してほしい。
鶴ヶ島音訳ボランティアサークル「せせらぎ」	-
鶴ヶ島市障害者支援ネットワーク協議会	障がいのある人もない人も、マイノリティもマジョリティも住みやすいシステム作りを期待します。
特定非営利活動法人こっこの会	多様性のある街。(障がいの有無、LGBT's、外国人、性等に関わらず生き易い鶴ヶ島市)
鶴ヶ島市ラジオ体操連絡会	-
鶴ヶ島市シルバー人材センター	特になし。
鶴ヶ島市老人クラブ連合会	(※交通弱者対策の検討)
鶴ヶ島市PTA連合会	<p>・鶴ヶ島市のアイコンになるようなシンボルがあると良いのですが、なかなか見当たりません。農業でも工業でも目立ったものが無いのが実情だと思います。そのような場合、人に投資することも良いのではないのでしょうか。子供たちが大きくなって鶴ヶ島に戻って来てもらえるような地域になる事を期待します。また子供たちの家庭への教育補助、教育支援などを検討していただけないのでしょうか。</p>
特定非営利活動法人 つるがしま里山サポートクラブ	<p>特に、よりよいまちづくりには、行政のみならず、市民、企業、市民稼働団体の密接な連携活動が必要とされています。又、市民活動団体の横のつながりも大切です。</p> <p>全市的に各市民団体が繋がって、協力出来る体制が大切と思います。</p> <p>現在は、社協が少し、その役割を果たしていただいておりますが、直接市民レベルの交流から生じる活動が大切と考えています。行政だけでまちづくりを推進することは不可能であることは自明なことであり、市民の力をいかに取り組み、協働していくことができる仕組みが必要です。他都市には、市民が主体になって運営されている「市民活動センター」が多くあります。鶴ヶ島市は先駆的に市民活動推進センターを設置したものの、首長の交代などにより、活動が低下し、結果的に廃止されたことは、市民にとっては大切な市民活動の情報交換場所を失ってしまったと思っています。又、里山サポートクラブの活動は、市民の森があることから、少しでも、多様な市民団体の交流の場を作ろうとして取り組んで来ましたが、取り組みにも、限界があります。鶴ヶ島は、沢山の市民団体があると言われてはいますが、市民センター毎に同じような活動している団体が多いため、数は多いのですが、活動の限界があります。市民の力をバラバラにしないで、まとめて、新たな力に変えていくしくみが必要だと思います。</p>

団体名	回答内容
	<p>最後に、鶴ヶ島市の魅力として、7万人の市に2つのICが有り、圏央道で、約1時間で成田から八王子(将来は横須賀)、関越道では、軽井沢まで広がる大きな圏域があります。結果、市内には、沢山の運輸倉庫業の立地が見られています。今後、この立地条件を生かした、高付加価値企業誘致政策などによる総合的なまちづくり案が不可欠です。</p> <p>前期の計画では、人口問題研究所の予測かも知れませんが、人口が減少することを前提として計画するとうたっています。しかし、この5年間では減少どころか微増しています。計画の大前提が狂ってしまっています。自治体の人口計画は、独自の政策展開による人口の増減を積み重ねて想定するものであり、この点も含めて、再検討が必要です。人口をどのように増加させるか、若者世帯の移住策など、鶴ヶ島の魅力をどのように移住想定者に伝えるか等、戦略的な政策展開が不可欠と思います。</p>

3 各種団体ヒアリング 実施概要

(1) ヒアリング調査の概要

① ヒアリング調査の目的

まちづくり団体シート提出の団体を対象に、記載されたシート内容を踏まえ、より具体的に団体・組織の皆さんの意向を把握し、その結果を後期基本計画策定の基礎資料として活用することを目的としています。

② ヒアリング調査日

・令和5年10月10日（火）、10月20日（金）

③ 参加団体数

・参加団体 19団体
・参加人数 31人

④ヒアリング調査の方法

・活動分野別に2～6団体の5グループに分かれて、聞き取り・意見交換を実施
(場所：鶴ヶ島市役所4階会議室)

[各回のプログラム]

<p>1 開会 ・事務局あいさつ ※開催目的等の説明</p> <p>2 趣旨説明 ・配布資料1～2の説明</p> <p>3 意見交換 (1) 現在感じている課題や問題点 (2) 今後の活動に向けて (3) その他</p> <p>4 閉会 ・事務局あいさつ</p>	<p>(配布資料) 次第 資料1_第6次鶴ヶ島市総合計画の概要 資料2_まちづくり団体懇談会(ヒアリング)の開催 に当たって</p>
---	--

(2) ヒアリング参加団体

① 第1グループ

開催日時：令和5年10月10日 10:00~12:00

団体名
チームとらいあぐる
鶴ヶ島市コミュニティ協議会
鶴ヶ島市国際交流協会
特定非営利活動法人 鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会
サザン地域支え合い協議会
鶴ヶ島視覚障がい者の会アイネット

② 第2グループ

開催日時：令和5年10月10日 10:00~12:00

団体名
エコ鶴市民の会
鶴ヶ島の自然を守る会
大谷川源流の会
つるがしま緑のカーテン 市民実行委員会
特定非営利活動法人 つるがしま里山サポートクラブ

③ 第3グループ

開催日時：令和5年10月10日 14:00~16:00

団体名
すねおり地域支え合い協議会
鶴ヶ島市民生委員・児童委員連合協議会
社会福祉法人 鶴ヶ島市社会福祉協議会
鶴ヶ島市ラジオ体操連絡会

④ 第4グループ

開催日時：令和5年10月20日 14:00~15:40

団体名
鶴ヶ島市聴力障害者会
鶴ヶ島市PTA連合会

⑤ 第5グループ

開催日時：令和5年10月20日 18:30~20:10

団体名
鶴ヶ島市障害者支援ネットワーク協議会
特定非営利活動法人こっこの会専門指導部
サザン地域支え合い協議会

(3) ヒアリング参加団体意見（発言要旨）

① 第1グループ

団体名	発言要旨
チームとらいあぐる	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画を重視し、女性センターで応援団のような活動を行っている。 ・活動の中心は、性別に関わらず活躍できるように支援することだが、男性がこの男女共同参画にどのように関わればよいのかが十分に伝わっていないと考えている。 ・女性を主な会員とするが、男性に向けた発信を強化したい。施設は全ての人々が同等に活動できることを目指しているため、個人的には施設名称を「女性センター」から「男女共同参画推進センター」への変更を望みたい。 ・今年度は市主催の「ハーモニーふれあいウィーク」を、自主企画「ハーモニーそうだったのかウィーク」に変更し、10月末に実施する。 ・自治会会員は世帯主が加入することが慣例となっており、女性の参加を妨げる一因となっている可能性が考えられる。実質的に活動できる人で組織体制を組むことができれば、女性の参画はこれまで以上に増えると思われる。
鶴ヶ島市コミュニティ協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の加入率が低下し、高齢化による役員数の不足により、市からのお知らせの周知や募金等の活動は負担になっている。ゴミ集積所の管理や分別に関するトラブルが多くなっている。 ・コロナが明けて20団体による地域のお祭りが4年ぶりに開催され、地域のお祭りを改めて大事にしたいと思っている。 ・市の年2回の一斉清掃は、多くの市民に参加してもらいたいと思っている。市に要望したいのは、一斉清掃を自治会員、非会員に関わらず、参加できるコミュニケーションの場として工夫をしてもらえるとよい。 ・賃貸住宅では入れ替わりが激しいので自治会加入率は低い。UR団地などでは自治会自体がなくなっているところも多く、外国人居住者も増えており、自治会に加入する機会が作りにくい状況がある。 ・自治会に加入していないマンションや集合住宅とどうコミュニケーションとるか、どう関係性を結ぶかというのは、自治会に入る、入らないとは関係なく探っていく必要がある。 ・地域の活動が単発のイベントものが中心となっており、日常的な、継続的な地域活動をどう支えるのが課題となっている。コミュニティ活動自体をイベント中心から継続的な活動スタイルの方向に変えていく必要があると思う。 ・個々の地域団体が活性化することも大事だが、市全体の中でコミュニティ活動がどうお互いに助け合いながら進んでいけるのかということ、このような話し合いを通じて共有し検討していく必要があると思う。地域団体間をつなぐ人や体制も必要だと感じている。それで初めて繋がりができていくのだと思う。

団体名	発言要旨
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの下校時の見守りなどは、義務のような取組となり、また交通指導員的な働きも期待されることを考えると、有償ボランティアも視野に入れる必要があると思う。既に長期にわたって活動している人は本当に稀であるので、そのような人をどのように気持ちよく制度の中に組み込んでいけるかも考える必要がある。 ・地域活動への参画は年齢的には、実際には80歳ぐらいが限界だろう。再雇用で70歳ぐらいまで地域活動ができない人が多くなっており、ますますコミュニティを作るのが難しくなっていくと思う。 ・自治会からボランティアにわずかだが「ありがとう」券を発行している。また下校時に、特定の場所に行くのではなくても自分の家の前に出てもらい、子ども達に「お帰り」「車が来てるから危ないよ」などと声かけをしている。 ・独居老人が増えており、亡くなっても気づかないケースが出てきている。自治会に入っていない人の状況は、正直把握できていない。調べようと思えばできるが、そこまで踏み込んでよいものか思案する。しかし地域の安全を考えると、市職員や民生委員の力を借りながら、ある程度の情報整理をしていかないといけないと思っている。 ・鶴ヶ島市も住環境として魅力が高まれば若い世代が移ってくると思う。その努力をしないといけないと思う。
鶴ヶ島市国際交流協会	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人の参加者が増えているにも関わらず、日本人の参加者が不足しているため、活動が充実していない状況が続いている。産業まつり等の機会を活用して、活動のアピール、メンバーの募集を行う予定。 ・日本語を学びたい外国人が増えているが、ボランティアの数が足りない。市内での募集では、十分な結果には至っていない。日本語の上手な外国人にボランティアとなってもらう取組を進めている。外国人が市民という立場でボランティアに参加してもらい、ボランティア活動を通じて生活をサポートすることも重要だと考えている。 ・防災訓練などの地域活動に外国人が参加したくても、日本語が読めないために困っている。言語の工夫は、多言語化よりも、やさしい日本語を使うことの方がより重要である。土曜日開催も、外国人にとっては参加が難しい人が多い。
特定非営利活動法人 鶴ヶ島第二小学校区地域 支え合い協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手不足に対しては、小学校や中学校で自治会や防災の話をする機会や地域活動の時間を設けて関係づくりをしている。さらに、学校を巻き込んだ活動を行うことで、より広範で興味深いまちづくりが可能ではないかと考えている。 ・住民の安全を守るための地域での防災訓練は重要であるが、外国人や障害者も参加しやすいように工夫していく必要がある。 ・スクールガードのような長期間のボランティアには市から感謝状を発行するなどの対応が望ましい。また、確保したいボランティアに対しては有償ボランティアの考え方も必要だと思う。協議会支援金の一部をそれにあてることも検討できるように思う。 ・当協議会では、多くの女性の参画によって地域活動の維持と活性化が図られていると感じる。 ・行政計画については、振り返りと評価を重視することが望まれる。

団体名	発言要旨
サザン地域支え合い協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・10年前から中学生にボランティア活動への参加を呼びかけており、夏祭りやウォークラリー、防災訓練などのイベントに参加してもらっている。学生の年代から、地域とのつながりを作り、地域を支える意識を持ってもらいたい。 ・一斉清掃活動は地域の重要な活動であるが、自治会に加入していない人にも参加を呼びかけていきたいが難しい。 ・南小学校 PTA からは子どもの下校時の見守りの支援を依頼されているが、ボランティアで毎日対応することは難しい。このような地域ニーズに答えていくためには、他団体等との連携や協調が必要となる。 ・若い人や他の団体の意見を聞くことが重要であり、実施する時間帯も平日日中だけでなく、休日や夜間も考えられると良い。
鶴ヶ島視覚障がい者の会アイネット	<ul style="list-style-type: none"> ・活動目的は、障害者への理解促進である。特に小・中学校での福祉事業に力を入れている。 ・市内には視覚障害者は約 100 名いるが、当会への視覚障害者の参加数は多くはない。 ・今年 3 月に障害者のコミュニケーション支援に関する条例が制定されたが、地域の理解はまだ不足している。 ・ボランティア参加のきっかけづくりのために「地域デビューきっかけ広場」や「障がい者交流フェスティバル」を開催する。 ・社協の交流活動「心と心をつなげるネットワーク活動」は、日常的な交流だけでなく災害時にも役立つつながりであり、広げていきたいと考えている。11 月には、市の防災訓練に参加を予定している。

② 第2グループ

団体名	発言要旨
エコ鶴市民の会	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルマーケットはかなり長い間やってきたが、ここ数年は会の高齢化が進み、脱退する人も増えおり、会員数が減ってしまっている。 ・会員募集の方法を工夫する必要がある。市の広報紙だけでは不十分で、企業や団体、個人に直接働きかけたい。若い人を引き込まないと活性化しない。資金面など外部の支援を募り活動を広げる必要があると思う。 ・食品ロスの取組にも力を入れており、他団体とも連携して、ともに活動を広げていくことが課題だと思う。 ・事業者がゴミ減量や 5R 推進、ゼロカーボン等の活動をするこの社会的な効果は大きいので、積極的に働きかけていきたい。 ・公園の樹木の伐採が増えており、住民要望ということだが、将来の公園の姿を考えながら、古い木の伐採や新しい木の植樹を考えてもらいたい。 ・税金の使い方のバランスを考えつつ、国や県からの補助金も利用して緑の自然を守る努力をしてほしい。緑があることが移住の理由になる。さらに教育への投資も重要である。 ・情報発信の方法と頻度を増やす必要がある。広報誌は会員にしか届かないため、他の方法も試す必要がある。企業や他の場所に足を運び、一緒に考えていくことが重要だと思う。

団体名	発言要旨
	<ul style="list-style-type: none"> ・会の活動も長く、レベルも高くなっており、新しいメンバーが入りにくくなっている面もある。若い人達は自分の課題や興味で会を作ってもらい、若い人たちと高齢者が教え合ったり、連携したりできるとよい。 ・自然豊かなまちであれば、いつまでも健康でいられると思う。
鶴ヶ島の自然を守る会	<ul style="list-style-type: none"> ・最近メンバーが高齢化し、パワー不足が深刻な問題である。樹林地の減少と自然の質の低下を感じている。外来植物の駆除等に意識を持ってもらいたい。 ・22人の会員であるが実際の参加は4～5人である。新しい会員を募集しようと考えているが、会の宣伝もしていないため、市民には我々が何をしているのか認識されていない。自然に興味のある他の団体とのネットワークを作り、定期的な意見交換会や勉強会を行うなどで会の活性化を図りたいと考えている。 ・環境基本計画策定時のアンケート結果を総合計画に反映してもらいたい。 ・楽しい活動として発信していくことで、色々な人に関心を持ってもらい参加を広げていきたい。
大谷川源流の会	<ul style="list-style-type: none"> ・グランドワーク方式を取り入れ、地域、企業と行政が関わるとよい。 ・公園の整備に関して、市民が計画をして、行政がそれをサポートする形ができるとよい。 ・市民のボランティア活動に対して、資金面なども含め市がサポートする体制を作ってほしいと思う。 ・市民の森がなくなりつつあり、市だけでは対応ができないので、資金面も含めて県や国に支援を求めていきたい。 ・計画の進捗管理に関して、市民への情報提供をお願いしたい。
つるがしま緑のカーテン 市民実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・今年3月の市の「ゼロカーボンシティ宣言」は一部の市民にしか浸透していない。良い政策が絵にかいた餅になってしまっはもったいない。 ・へちまプロジェクトは分かりやすい活動であり、市でもアピールしてほしい。
特定非営利活動法人 つるがしま里山サポートクラブ	<ul style="list-style-type: none"> ・公園等の樹木が伐採されてしまうのは残念である。市民から要望があったから、お金がかかるからと言って、直ぐに切ってしまうというのは問題だろう。残してほしいという人々の声が出ないままである。 ・鶴ヶ島市の魅力は、緑が多いことである。この魅力を生かすためには、公園を残すだけでなく、里山や自然林を残すことが重要である。緑を生かして子どもに優しいまちづくりを進めていきたいと思う。 ・ロボティクスセンターの整備により、IHI等の新しい企業が進出するというので、雇用と定住が増えるので、それに対応した住宅供給が必要となるが、過去のいろいろな計画には、人がどう使うかという部分だけが焦点になっていて、緑のことは書かれていない。 ・まちづくりは、市民・企業・行政の3者が一緒に連携しないとできない。以前の公民館では、何かあればみんなで手伝ったり、アドバイスをしてくれる人がいたが、今の市民センターではそのような機会がなくなってしまい、市民活動が低調となってしまったように思う。

団体名	発言要旨
	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴ヶ島市の特徴は、自然と調和する都市環境と多種多様な人々や団体が存在していることであるが、市民団体の育成については、意識や取組が十分ではないと思う。市としては市民団体を育成し活用する方法を具体化し、情報交換や課題の共有を図るべきだと思う。 ・地域での高齢化が急速に進んでおり、ロボティクス技術の活用に期待する。少子化に対しては、子ども達をもっと元気にする空間づくりを進めたい。民間企業と連携して進めることができるのではないかな。

③ 第3グループ

団体名	発言要旨
すねおり地域支え合い協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・市や地域に恩返ししたいと思い協議会に参加している。協議会は利用会員 30 名と支援会員 50 名からなる。特に大きな使命感のようなものはなく、集まったメンバーが話し合い、お互いに助け合って、何とかやっけていこうよということで一步步進めることができている。活動は助け合い隊を通じた地域での支援と、協議会の宣伝のための朝市の運営が主な活動である。朝市は地域の人達の交流の場の提供ともなっている。子育て支援に関しては、今は特に取組はないが、自分達だけでは難しいので、外部からの協力や若い親たちの参加が必要だと感じている。具体的な解決策を模索中である。 ・現在、我々は自治会や包括支援センターとは連携しているが、民生委員との連携についても必要だと感じている。我々はゴミ出しのお手伝いをしているが、その中で安否確認等ができる。民生委員と情報の共有を図ることができれば、さらに地域の安心安全を高める方法も考えられると思う。他の関連団体とも協力しながら、地域活動に貢献していきたい。 ・人が財産であり、心に通じあうことがあることで、この地域にいてよかったと思えると思う。人とのつながりや地域の一体感が重要であり、防災訓練などを通じてそれを高める必要があると思う。自治会をはじめ他の団体と協力して、より効果的な支援を模索していきたい。ただし、現役の会員数が少なく高齢化が進んでいるため、子育て関係の取組を取り込みながら、若い世代を引き込んでいきたいと考えている。 ・情報発信については、デジタル機器の活用については過渡期であり、今は従来のものとデジタルと両方やる必要がある。デジタルの利便性を高めていくための取組は必要だと思っている。 ・買物代行や同行などを行っている中で、支援高齢者の声によると、つるバスは便利で使っていると評価されているが、停留所の時刻表の文字が小さくて見えない、時刻表の位置が低すぎる等の意見がある。

団体名	発言要旨
鶴ヶ島市民生委員・児童委員連合協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の高齢化、相談内容の多様化、地域では高齢者の増加が進む中で、民生委員の候補が見つからない状況である。私の所でも 29 名が必要だが未だ 5 名欠員である。一人暮らしのお年寄りや、見守りが必要なお年寄りがかなり増えている。私が初めて民生委員となった 7 年前から比べると、必ず見なければいけない高齢者の数が倍ぐらいになっている。私自身の受け持ちは 270 世帯で、うち訪問するのは 100 世帯近くに増えている。担い手が見つからないのは、就労期間が延びていることが大きい。70 歳過ぎまで就労している人も多く、やろうと思っても自分の生活が大事でそこまで手が回らないのが現状。そのような中でも民生委員への負担が増えている。昔からのやり方をそのまま続けていくのは無理である。また、市は行政ボランティアの総量などを把握していない。そのような認識から変えていく必要があると思う。 ・ボランティア活動においては、文部科学省と厚生労働省の間で競争が起きており、文部科学省の方が活発であると感じる。学校関係の活動には多くのボランティアが集まっている一方、福祉関係の活動ではボランティアが奪われているという実感がある。 ・民生委員が見つからないため、地域福祉サポーターという無償のボランティアの導入が始まっているが、民生委員へ移行していくことができるのか思慮している。民生委員には多くの仕事があるが、自分は勤めがあるため、市の配慮で仕事を分散してもらい引き受けることができた。人によって関わり方は違う形があるし、有償ボランティアや無償ボランティアの違いもある。 ・具体的な対象は、70 歳以上の一人暮らしの人である。民生委員は訪問するだけでなく、資料をポスティングする場合もある。活動していることを示すためにポスティングを行っている面もある。活動の質にはバラつきがあるが、市はボランティアの活動内容をチェックすることはない。難しい課題だと思っている。市には民生委員が一生懸命活動したいと思う雰囲気を作ってほしいと思う。単に報酬の有無ではなく、やりがいを感じるということが重要だと思っている。 ・私たちの地域では、子どもサロンと助け合い、福祉部が存在し、福祉部には民生委員も参加している。市では、市民センターに何か測定機器を置き、それを利用してポイントを付与するような、流行りのことをやりたがるが、既存のラジオ体操と連携するようなアイデアが市の職員には足りないように思う。市民センターに高価な機器を置くことが評価されるのか疑問である。 ・ボランティアも表彰することが重要だと思う。その人の貢献を認め、それによって他の人もその人の活動に気付くことができる。評価されることでやりがいを感じることもつながる。特に女性の気遣いや思いやりの点も評価することが重要だと思う。それは年齢に関係なく、盛り上がりをもたらすと思う。 ・自治会の自主的なイベント等は急速に衰退しているように感じる。ラジオ体操や朝市は、地域の活性化に貢献していると思う。出展者もやりがいを感じているようである。多くの人が参加するとよい。

団体名	発言要旨
社会福祉法人 鶴ヶ島市社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・社協の活動の中では心と心を繋ぐネットワーク活動「ここつなネット」というものを行っている。地域の見守りを民生委員とお互いに見守り合う関係で行っている。約 600 人の支援者、約 300 チームあるが、自治会や地域支え合い協議会、民生委員の既存組織を活用し再形成しながら、ちょっと知っているぐらいの関係性を作ったり、つながりを深めたり、いくつかの切り口を作っていくのが良いと思っている。 ・見守りに関連して、小中学生に情報誌「えん」を見守る人、見守られる人全員に配るというボランティアをやってもらっている。 ・市行政の縦割りと福祉専門職の縦割りで、上手く連携できていない。 ・民生委員役員のレベルは高く、一人ひとりに寄り添ってもらっている。民生委員活動の事務の支援が必要である。 ・福祉ボランティアに対する、やってよかったなと思ってもらえるサポートと学び合いが必要である。 ・後継者不足で悩んでいる地域支え合い協議会の中で、鶴ヶ島第 2 小学校校区地域支え合い協議会では、新しい事業でおもちゃ病院を始めたことで、新しい人が入ってきている。後継者問題に対して市としてどう支援していくか。 ・お金を出せば地域のボランティア組織が上手くいくとは限らない。社協から福祉政策課からと出し口が違っても同じようなことをしている場合が少なくない。課題と役割がマッチングしているかが重要である。 ・地域住民が気軽に集まれる場所ということでサロンをやっている。やりたい側が人を集めて開催している。子どもや障害者や色々な人が毎日集まれる複合的な拠点として、社協としては力を入れていきたい。 ・つるポッケのアプリは便利であるが、連絡調整などは LINE などのアプリを有効に活用していく必要がある。 ・移動販売車については、やる気のある民間事業者も出てきており、個別でも対応可能ということなので、要望があればつないでいく。
鶴ヶ島市ラジオ体操連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりということで、市長にラジオ体操とお手玉体操を提案した。退職した男の人達も参加してくれるようになり、少しずつラジオ体操が広がってきて、560 人、30 団体ぐらいに増えている。市から少しは支援があると嬉しい。他の団体や学校にもかなり協力はしてもらっているが、もっと幅広く認識してもらう必要があると考えている。 ・ラジオ体操をすることで医療費の節約につながり、その効果を数字で示せば、より多くの人に応援してもらえる。毎日顔を合わせることで見守り効果もある。 ・市にはラジオ体操を小学校の全学年に取り入れてほしいと話をしている。まちづくりにおいては、同じような運動イベントがいくつも縦割りで行われていることもあるので、街全体のイベント情報を一覧でまとめて提供することで、参加しやすくなると思う。 ・お手玉にはゴム紐をつけてツボ押しや全身運動につながる。お手玉は地元で作っており、特産品としていく可能性もあると思う。 ・高齢化が進む中、市の広報紙に横文字が増えており、疑問を感じることもある。交通が不便な地域では、移動販売車は非常に有益なサービスだと感じている。

④ 第4グループ

団体名	発言要旨
鶴ヶ島市聴力障害者会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者当事者が問題を話し合う場に参加できていないところがあり、そのために当事者の意見が反映されていない。国の考え方も変わり、合理的配慮がされるようになり法律も変わってきているが、市町村ではそのような制度が新しく作り直されていない面がある。障害者福祉計画とまちづくり計画を分離するのではなく、合わせて考えてほしい。 ・ 交通や心などバリアフリーの取組は様々な面で進むが、団体としては、鶴ヶ島市手話言語条例と合わせて、一層の取組みを啓発も含めて進めてほしい。 ・ バリアフリーと様々な障害者に対する情報アクセシビリティと繋げて考えてほしい。災害が起こった場合はどうするのかなど。一番は障害者が自由に選択できるようになること、日常の社会生活に関わる情報を得られる環境にすること、聞こえる人と同じように情報を把握できるようにすること、情報のネットワークを作りながらその最新の技術に積極的に取り組んでほしい。 ・ コロナ禍でワクチンに関する情報も十分に知ることができない状況があったので、情報のデジタル化を目指してもらいたい。 ・ Society5.0の取組は、障害者にとって非常に重要である。デジタル化の未来というところで、早めに取り組んでいくことが大事である。 ・ 社協の手話通訳者は正規職員が1名だけであり、年間800件近い依頼があるため、対応が厳しい状況である。 ・ やはり障害者と一般の人が交流する場がないと思う。以前は、福祉祭など一般の人と障害者が集まって交流するイベントを楽しむような機会があったが、今はなくなってしまった。 ・ 鶴ヶ島市には防災無線が設置されているが、私たちは放送を聞くことができない。地震を体感して分かったとしても、次にどうしたらいいのか分からない。当事者を踏まえて無駄のない新しい通信機器などの製作を進めてもらいたい。避難所の問題もあり、情報がなかったために排除されてしまう環境はよくないと思う。その意味でも日ごろの交流が重要である。 ・ 自転車については、警察から新しい法的ルールも出たが、やはり道路が整備されていないと危ないと思う。坂戸駅から伸びた道路は大変でこぼこしているので、歩道と合わせてフラットにする整理を検討してほしい。鶴ヶ島駅前の道路も狭いので広がれば歩きやすくなると思う。 ・ 高齢者・視覚障害者・肢体不自由者が集まって、このような話ができる場があると良いと思う。情報の共有はとても必要である。情報がないと誰が音頭をとるのかも難しいし、行政と情報を共有すれば進めやすくなると思う。小学校の統合、道路の危険箇所、少子化、共働きになり見守りができない、そのような問題についても同じように情報共有が必要だと思う。 ・ 障害者福祉課に団体が登録されているので、それら団体のみみんなが集まれば良いと思う。行政が市民によかれと思って決めるのではなく、当事者の声を大事にして進めていってほしいと思う。

団体名	発言要旨
	<ul style="list-style-type: none"> ・市民センターが6ヶ所あるが、市民センターによっては、エレベーターがないので設置してもらえるとよい。 ・公園についても、古くなっていたり、ゴミが捨てられたりしている問題があるので、一般市民も一緒に集まって話し合えたら良いと思う。 ・物価が上昇する中、家計支援策として他市では市民に対して地元商店での割引サービス等があるが、鶴ヶ島市でもそのようなサービスが必要ではないかと思う。 ・小中学校の給食費を無料にすることについてはどうか。坂戸市では給食費は無料になったと思う。 ・行政情報は、市ホームページに載せるだけでなく、できるだけ具体的に情報を得る手段が必要だと思う。例えば YouTube 等で手話動画をつけてもらえると、聞こえない人にもより情報が正確に伝わると思う。字幕の表示は、中途失聴者や高齢で耳が聞こえなくなった人にも有効であるし、外国人にとっても日本語を学ぶ良いきっかけにもなると思う。 ・鶴ヶ島市に住んでいて、市内で働けるのは良いことであるので、農業大学跡地での企業誘致についても情報の提供をお願いしたいと思う。 ・市のアプリ「つるポッケ」はとても良いと思うが、聞こえない者としては動画がついていない所が残念だと思う。バリアフリーという観点からぜひ見直しをお願いしたい。日本語が不自由な人や脳に障害がある人にとっても分かりやすくなると思う。 ・企業の誘致も大事だが、大型ショッピングモールなどの立地もあればうれしい。税収が上がるのではないかと思う。
鶴ヶ島市PTA連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・各 PTA は保護者の団体になるが、以前は PTA 活動に嫌々ながらも協力している状況であったが、現在はかなり PTA に関して難色を示す人が増えている。最近は「なぜそういう団体に入らないといけないのか」というクレームに近いものも増えている。 ・各校の PTA 活動を見ると、自治会や学校応援団、地域のお年寄りなどの各団体の方との交流を積極的に図っている。PTA の役員は、子供の教育環境のためということで、忙しい時間の中で学校と協力して活動を行っているが、その中でも難色が示されることも少なくなく、スムーズに事が進まないこともある。また昨年度に富士見中学校では PTA の体制が整わなかったため、1年間休止という事態も発生している。 ・この先、鶴ヶ島中学校と西中学校の統合が控えている中で、子ども達の教育の場や活動の場が限られることを非常に危惧している。学校によっては特定の部活がなくなり、これは PTA の立場や保護者の立場からすると、教育の格差が地域に生まれつつあると認識している。PTA と学校が協力をして、先生たちの働き方改革を進める体制がとれていない。私が一番恐れているのは、鶴ヶ島市が子育てをするのに不利な地域となってしまうことである。 ・サッカーについて言えば、市内に部活動がない学校もあるし、私設のチームがあってもグラウンドがない・施設がないということで、約半数は市外に行っている。

団体名	発言要旨
	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー以外でも、中学校の吹奏楽部で楽器を習いたいといっても、鶴ヶ島市内では楽器が買えないので外に出ていくのではないかと思う。鶴ヶ島にどのような魅力があるのかと聞かれたときに、はっきりと回答できない。地域の団体との連携を図っていければ良いが、誰が取りまとめているのか全く見えないので、鶴ヶ島の教育環境、育成環境というのを非常に危惧している。 ・市の魅力づくりということで、商工会もいろいろとやっているが、商工業自体がなかなか厳しい状況であり、あまり上手くいっていないと感じる。そうなるやはり人材に費やすのが一番なのかなと思う。後期基本計画には、人材の育成という観点から様々な施策を入れてもらいたいと思う。 ・学校・自治会・学校応援団などの組織で連携会議をやっているところもある。コロナ禍で中止になっていたが、最近再開しているところもある。誰が幹事をするのかという問題がある。学校なのか、PTAなのか自治会なのか、地域支え合い協議会なのか、誰も音頭をとりたがらない。でも一緒に取り組むことができれば新しい試みになると思う。 ・PTAをやっている杉下小学校では、自治会・学校・学校教育をサポートする団体（例えば読み聞かせグループ等）で集まって交流する場があるので、そういう場で何ができるかを話し合っていくことは可能だと思う。 ・子ども達の通学が危ないと言われている。昔は保護者が見守りをしていたが、今はできていないし、地域の人達も手伝えなくなっていて、なかなか見守りができない状況になってしまっている。子ども達が危ない所は、誰にとっても危ない所だと思うので、子どもの視点だけでなく、障害者などの意見も広く聞いてトータル的に危ないところをチェックする、共通認識として取り組んでいくのも一つあるかなと思う。 ・理想はいろいろな団体が情報を共有しながら、意見を出し合っていくのが一番だと思うが、PTAの場合、現状8割はPTA活動に関して否定的である。忙しい、時間がない、土日は遊びに行きたい、他のことをやっているからなどの理由である。2割ぐらいの方で組織を運営している感じだと思う。こういう状況で情報共有をしても、市の理念といったことを整えていくのは非常に難しいと思っている。形としてはみんなで集まってやりたいが、この状況では非常に難しいことだろうと思う。これは行政の問題ではなく、市民の問題だと思う。PTA活動が厄介だとしても、人との繋がりや子どものためにやっているという意識を、その他の人にどう意識してもらおうかが非常に難しい。各団体のリーダーがそのような考えを持ちながらいろいろやっていくしかないが、かなり難しいと思う。 ・一番に感じてほしいのは、十分に恵まれたこのまちで暮らしてよかったと思えることである。地産地消というか、自分が育った地域の魅力を感じてほしいのが一番だが、どうやって伝えるのが難しい。一つのスタイルとして、ヨーロッパ型のスポーツクラブチームのような形が考えられる。

団体名	発言要旨
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校給食に関して、食育という観点で地域の野菜を使ったり、農家との交流等の取組があれば、市の特性を活かすことにもなると思う。 ・ 総合計画ということで全体的な話が必要だと思っている。例えば PTA で活躍した保護者の、子育てが一段落した後の、地域企業での就業の支援など。双方にメリットがあるのではないか。 ・ 行政には情報の提供・共有を進めてもらうと同時に、自分達から情報を取りに行かないと駄目なのではないかと思っている。 ・ 各団体のリーダーが集まり意見を重ね、市全体として考えた上で、その先は団体とかを越えて一緒に作っていかないといけない。これからはどうしても人がいなくなり、今ある団体も対応しきれなくなると思う。そこをどうやって考えていくか。例えば、次の 10 年の政策を出していくことで、もう少し変わった鶴ヶ島市が見えてくるのではないかと感じている。

⑤ 第5グループ

団体名	発言要旨
鶴ヶ島市障害者支援ネットワーク協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 我々の取組は、全体の意識を変えていきたいという思いで、各方面に働きかける取組をしている。支援の対象は子どもである。川越市の小学校でスクールソーシャルワーカーをしており、発達障害のために不登校だったり、適応障害を引き起こしてしまう子どもたちをみている。 ・ 全国各地で不登校特例校の「学びの多様化学校」があるが、鶴ヶ島市にも必要だと思う。子どもが抱えている困難さは、その子の能力というよりも、社会との壁に存在するものなので、その壁を取り除くための場所が必要になるが、現在では公的な受け皿はない。医師の診断書や学校長の許可がなくても行ける第 3 の居場所、ほっとできる場所が絶対に必要だと思う。 ・ 子どもが輝けない市には未来がないような気がしている。困難を抱えた子どもの学びを考えた時に、鶴ヶ島市が良いらしいからと引っ越してきてくれるような鶴ヶ島市が理想である。教育現場での子どもが抱える困難さに対する理解が乏しいと感じている。市においては、こういう問題があることを理解してもらい、学びの多様化ということに目を向けてほしいと思う。 ・ 今はまだ、自分で発達障害だということを回りに言わなければ理解されない環境が教育現場では当たり前になっている。周りのみんなが疑問に思わない環境づくりが必要である。 ・ 困難を抱える子どもの家庭の中でも、相談窓口などに行かない人がかなりいる。知識も乏しく相談スキルも身につけていないので、相談しようと思わない人が多いと感じる。子どもが困っていても、保護者の理解の低さ、相談スキルの無さで、子どもの逃げ場がなくなってしまうこともある。気軽に相談できる場所があること、相談することへの変な認識を払拭すること、相談しない人たちにも支援があることを伝えることが課題だと思う。

団体名	発言要旨
	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害や精神障害に対して、まずは教員がそれを正しく理解し、子ども達に正しい教育ができるようにしてもらいたい。 ・日高市の福祉センターは、公民館のようにいろいろな部屋があって、そこを各団体が様々な活動に使ったり、講演会を行ったりして結構人が集まりやすくなっているように思う。社協自体が市民の活動の場になっている印象である。 ・市職員は部署が2～3年毎に変わると思うが、異動された部署でも是非今回のような話は伝えていただけると嬉しい。
<p>特定非営利活動法人こっこの会専門指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害という言葉を使わないと気付いてもらえないことが、そもそも問題である。今は、学会でも神経発達症という言葉を使う。その点で鶴ヶ島市は遅れている。 ・福祉、教育、医療、家庭の連携がなかなかできていない。学校と家庭の話し合いしか持たれていないので、本当に困った人にしか連携が取れないと思う。神経発達症の人は身近に沢山いるが、どこに相談してよいか分からない人が多い。もっと予防的な対策が必要である。 ・全国的に福祉に対して頼りたくないイメージがあると思う。障害者、高齢者、貧困、誰でも相互補助という感覚があるのに、福祉というと恥ずかしいと感じてしまう。市役所の中に社協があるが、行きづらいと思う人が結構いる。街中に立ち寄れる場所があるだけでも、結構生きやすくなると思う。 ・ウィスク（WISC）という専門的な検査があり、病院に予約すると半年～1年もかかる場合があるが、我々には検査できる専門家がそろっており即対応できる。早期に発見できれば対処もしやすくなる。この点に関して、市においては我々をもっと活用してもらいたいと思う。ウィスク検査結果を病院に持っていけば診断してもらえし、学校に対しても関わり方のアドバイスがもらえる。 ・親支援なくして子育て支援はないと思う。子どもだけにフォーカスしても意味はなく、家庭全体を地域全体で支援する必要がある。在宅支援は高齢者に限ったことではない。
<p>サザン地域支え合い協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行政支援のあり方については考えるところが幾つかある。10年も経つと、補助金でやるのが締め付けみたいな感じでとられるようになり、お互い最初は協力的で同じ目的で一生懸命やっていたのに、市職員が変わると、その対応も変わってしまう面がある。社協でも同様であり、担当が変われば全く分らない担当者となる場合もある。こちらは市民なので、同じ活動をしなければいけない義務感を強いられると負担になる。 ・市側も最初は市民の行事に参加してくれて頼りがいがあったのに、今はほったらかし状態で問題が起きたらこちらの責任ですと言いかねないような状態がある。連携が崩れるのは市にとってもマイナスではないかと思う。補助金に依存する部分が多々あるが、10年経った今、行政との間に少し距離を感じており、そこが一番の課題と感じている。

団体名	発言要旨
	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会長の多くが70代以上となっており、会員は300人いてもほとんどが手伝えない状況になっている。私達はボランティアで集まった組織で、何も分からない中で、社協や市の担当者には熱心に教えてもらい、他団体にも声をかけて連携を取ってきたが、コロナのため今は活動が止まっている。一方で各団体組織の連携があったことで、緊急時などの対処ができるようになってきている面もある。 ・民生委員の活動はボランティアなので、対象者の年齢以外は何の情報もなく、今できることしか受けることができない。自分から持病のことなどを教えてくれる人はほとんどいない。専門の窓口などを紹介するが、行政や社協の深いところまで理解していない。困った時は行政に繋いでいくが、専門的な人がいないと感じている。学校に頼る場合でも、初期段階だけに限られると思う。学校応援団と民生委員に要請があり、問題を抱えた家庭にも出向くことがあるが、お金が関わることも多いので民生委員では一切対応できない。 ・支え合い活動をやってきて、福祉やその他の専門の方とコミュニケーションが取れて連携できてよかったと思うが、その連携も難しくなっている。 ・地域の課題を見つけながら、どういう地域をつかっていきたいのかという声に耳を傾けた方がよい。福祉を考えると専門的で難しい面があるが、安心で、住みやすい、楽しい地域づくりを活発化していくことが福祉にもつながっていくと思う。 ・市の防災訓練には地域支え合い協議会としても協力していくが、常日頃感じていることがある。地域や自治会が行っている防災訓練は、イベント的な活動となりがちで、机上の勉強だけになっており、実践的な訓練ができていないと思う。例えば、発達的な障害があるが普通の生活をされている人の避難所への受け入れ体制などは全く分かっていない。また安全な地域づくりに関しては、近隣地域と連携が取れる仕組みが必要だと思う。 ・広報紙を見ない市民も多い中、様々なネットワークを活用して広報活動を進めていくことが大事だと思う。あとは実際の場所として気軽に立ち寄れるサロンなどを開設し、用もないけど人が集まってくる、自然とつながりが生まれるような取組がよいと思う。

各 位

まちづくり団体シートへの回答のお願いとまちづくり 団体懇談会（ヒアリング）参加のご案内

鶴ヶ島市内でご活躍いただいている団体・組織のみなさまには、日ごろから市政全般にわたりご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

市では、現在、第6次鶴ヶ島市総合計画 前期基本計画（令和2年度～6年度）をまちづくりの指針として行政運営を進めておりますが、変化の激しい時代環境に対応していくため、後期基本計画（令和7年度～11年度）の策定に向けて検討を進めているところです。

今後は、各種の団体・組織のみなさまとともに、本市のまちづくりを推進していくことが更に重要になっているという認識のもと、まちづくりに係るみなさまの意向を幅広く把握し、計画に反映していきたいと考えております。そのため、「まちづくり団体シート」による調査を実施し、その結果を後期基本計画策定の基礎資料として活用してまいりたいと思います。

つきましては、ご多忙のところ恐縮ではございますが、今後の市政を発展させるための重要な調査ですので、何卒ご協力くださいますようお願いいたします。

また、先にご依頼しました「まちづくり団体シート」へ回答いただいた団体・組織のみなさまを対象に、その調査結果をご報告し、併せてみなさまから直接お話をうかがう機会として団体懇談会（ヒアリング）を開催しますので、希望される方々の積極的な参加をお待ちしております。

鶴ヶ島市長 齊藤 芳久

添付したシートの取扱いについて

【まちづくり団体シート】

- 2枚目のシートにご記入後、事務局（政策推進課）へ電子メールまたはFAXでご返送ください。郵送による返送や直接持参いただいてもかまいません。
- 9月22日（金）までにご提出くださいますよう、お願い申し上げます。

【まちづくり団体懇談会（ヒアリング） 参加申込書】

- 参加を希望される方は、3枚目のシートに必要事項をご記入後、事務局（政策推進課）へ電子メールまたはFAXでご返送ください。郵送による返送や直接持参いただいてもかまいません。
- 9月22日（金）までにご提出くださいますよう、お願い申し上げます。

《お問い合わせ先》鶴ヶ島市 総合政策部 政策推進課

TEL：049-271-1111（内線442） FAX：049-271-1190

E-mail：10200010@city.tsurugashima.lg.jp

【第6次鶴ヶ島市総合計画 後期基本計画】

まちづくり団体シート

貴団体名：	御役職：	御芳名：
-------	------	------

[1] 貴団体の現状や問題点についてお聞かせください。

〈現状〉 ※組織や事業・活動の概況、団体構成員の参加状況 など	〈問題点〉 ※直面している悩みや問題点などがあれば
---------------------------------------	------------------------------

[2] 貴団体として、今後の抱負や計画についてお聞かせください。

--

[3] 貴団体で推進・参加・協力（他団体との連携等も含めて）が可能な“まちづくり”活動についてお聞かせください。

--

[4] 貴団体の立場から、鶴ヶ島市の“まちづくり”へのご意見や要望等があればお聞かせください。

--

[5] 本市の今後の“まちづくり”全般について、ご意見・ご提案をお聞かせください。

--

ご協力ありがとうございました。

[鶴ヶ島市 政策推進課] FAX:049-271-1190

E-mail:10200010@city.tsurugashima.lg.jp

【第6次鶴ヶ島市総合計画 後期基本計画】

まちづくり団体懇談会(ヒアリング) 参加申込書

①参加団体及び参加者名

団 体 名	※正式な団体名をご記入ください。
申 込 者 名	※団体の代表者のお名前をご記入ください。
申 込 者 連 絡 先	※ご連絡を取りやすい連絡先をご記入ください。
参 加 者 名	※参加は原則として1団体につき2名様です。

②日程希望

※参加を希望するところ1か所に○をしてください。

区 分	10月10日(火)		10月20日(金)	
	10:00~12:00	14:00~16:00	14:00~16:00	18:30~20:30
市民生活分野				
健康・福祉分野				
子育て・教育分野				
※ 上記の日時で都合 がつかない場合				

- 参加希望がある場合は、9月22日(金)17:00までにお申込みください。
- 参加申込は「まちづくり団体シート」をご提出いただいた団体に限らせていただきます。

- 会場は、すべて『鶴ヶ島市役所4階 401会議室』です。

住所：鶴ヶ島市大字三ツ木 16-1

※ご不明の点がありましたら、鶴ヶ島市 政策推進課へご連絡ください。

TEL 049 (271) 1111 (内線442)

E-mail: 10200010@city.tsurugashima.lg.jp



【鶴ヶ島市 政策推進課】 FAX:049-271-1190

E-mail:10200010@city.tsurugashima.lg.jp

令和5年度
鶴ヶ島市各種団体シート取りまとめ
及び団体ヒアリング結果報告書

令和6年1月

発行：鶴ヶ島市

〒350-2292 埼玉県鶴ヶ島市大字三ツ木 16-1

TEL：049-271-1111（代表）

FAX：049-271-1190

URL <https://www.city.tsurugashima.lg.jp/>

企画・編集：総合政策部 政策推進課